

フェーズ1の実施体制

経済産業省 資源エネルギー庁



メタンハイドレート資源開発研究コンソーシアム

運営協議会

(プロジェクトリーダー: 田中彰一東大名誉教授)

資源量評価グループ

メタンハイドレート探査手法の開発
賦存量評価等を実施、開発技術の研究

(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機

生産手法開発グループ

メタンハイドレート生産手法の開発

(独)産業技術総合研究所

環境影響評価グループ

地層変形等の環境影響評価手法の開発、実施

(財)エンジニアリング振興協

年度計
進捗報

評価・助

中間(最終)報

中間(最終)評

メタンハイドレート開発実施検討会

(座長: 藤田和男東大名誉教授)

プロジェクト評価検討会

(座長: 在原典男早大教授)

・平成17年度

・平成20年度

産業構造審議会産業技術分科会評価小委員会

(委員長: 平澤冷東大名誉教授)

メタンハイドレート開発実施検討会

- フェーズ1の具体的な技術課題ごとの評価・検討等を行い、事業の円滑かつ確実な実施を図るため、資源エネルギー庁に設置。
- 座長は藤田和男東京大学名誉教授で、メタンハイドレートに関連する専門家10名で構成。
- 平成14年4月3日から平成21年3月23日まで、これまで全15回を開催。

実施 検討会

座長

・藤田 和男 芝浦工業大学専門職大学院工学マネジメント研究科 教授

委員

・内山 洋司 筑波大学大学院システム情報工学研究科 教授

・小野崎 正樹 (財)エネルギー総合工学研究所 プロジェクト試験研究部長

・末廣 潔 (独)海洋研究開発機構 理事

・松永 烈 (独)産業技術総合研究所 中国センター所長

・松本 良 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻 教授

・宮本 彰 大阪ガス(株)資源事業部戦略調査グループ ゼネラルマネージャー

・森田 浩仁 (財)日本エネルギー経済研究所 研究理事 戦略・産業ユニット総括

・安岡 省 東京ガス(株) 原料部長

・吉田 正寛 新日本石油(株) 執行役員 研究開発本部研究開発企画部長 兼 開発部長

メタンハイドレート開発促進事業プロジェクト評価検討会

- 「国の研究開発評価に関する大綱的指針(H17.3.29内閣総理大臣決定)」等に沿って研究開発の適切な評価を実施すべく、「経済産業省技術評価指針(H17.4.1改定)」を定め、これに基づいた研究開発の評価を実施。
- 平成17年度(フェーズ1中間時)と平成20年度(フェーズ1終了時)に当検討会でまとめられた中間評価報告書(案)は、産業構造審議会産業技術分科会評価小委員会で審議され、了承された。

評価 検討会

座長

・在原 典男 早稲田大学理工学部環境資源工学科 教授

委員

・兼清 賢介 (財)日本エネルギー経済研究所 常務理事

・佐野 正治 国際石油開発帝石(株) 取締役専務執行役員

・藤田 和男 芝浦工業大学専門職大学院工学マネジメント研究科 教授

・真殿 達 麗澤大学国際経済学部 教授

・森 邦弘 (社)ガス協会 常務理事

・山富 次郎 東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻 教授

平成20年度の総合評価(コメントの抜粋)

- 本事業は、国のエネルギー政策、温暖化ガス削減政策、海洋政策に沿っていると同時に、エネルギー資源の確保の観点から国民のニーズに合致し、大きな関心と期待を集めている。フェーズ1の研究においては、期間の延長など柔軟な取り組みにより、ほぼ目標通りの成果が得られたことは、高く評価される。
- フェーズ1では一定の成果が得られたものの、商業化までには新たな技術開発や既存技術の応用発展など更なる技術的・科学的課題に取り組む必要があり、いまだ民間事業の対象になるレベルには達していないことから、本研究開発は国家的なイニシアティブのもとで推進することが妥当である。
- これまでの研究成果からフェーズ1の目標はほぼ達成されていることから、フェーズ2への移行は妥当である。なお、基礎研究が終了する現段階で、事業化の妥当性を評価することは困難であり、フェーズ2の結果が出るまでは尚早と思われる。

平成20年度の評点結果

- 「経済産業省技術評価指針」に基づき、プロジェクト中間評価において、評点法による評価を実施した。
- 評価項目2は、各技術を『商業化に向けてどのように総合的にまとめるかという視点が必要』との指摘を頂戴した。
- 評価項目4は、フェーズ2への移行について意見を求めたところ、妥当であるとの意見を頂戴した。
- 評価項目5は、実施体制や開発マネジメントについても、総じて適切であるとの評価を頂いたが、研究コンソーシアム内における更なる情報交換が今後の課題としてあげられた。

